

令和6年度第1回 リニア中央新幹線三重・奈良・大阪 建設促進連携会議の結果概要について

リニア中央新幹線の「三重・奈良・大阪ルート」を前提とした詳細なルート・駅位置の早期確定及び、早期の全線開業に向け、三重・奈良・大阪の行政課題を共有するため、令和6年度第1回目リニア中央新幹線三重・奈良・大阪建設促進連携会議を開催しました。

記

1. 開催日： 令和6年7月18日（木）

2. 出席者：三重県 地域連携・交通部長
奈良県 副知事、県土マネジメント部長
大阪府 都市整備部長

オブザーバー：国土交通省、東海旅客鉄道株式会社

3. 結果概要：

○三重県、奈良県、大阪府の各府県で実施している取組について共有し、意見交換を行った。

【1. 出席者より挨拶】

○奈良県では、4つ目となる飛鳥藤原の文化財の世界遺産登録に向けて取り組んでいる。こういった資産の多い奈良に多くの旅行客に来ていただきたいと考えており、新幹線もない、空港もない奈良県において、東京から直接来られるリニアの駅は大きな期待が寄せられている。（奈良県清水副知事）

○三重県では、この7月1日に期成同盟会の総会を開催した。知事から、全国で三重と奈良だけが東京まで一本で行けず、インバウンドのためにも必ず通さなければならぬと挨拶したところ。名古屋、大阪間の1日も早い着工のためには本日の参加者と一致団結して取り組むことが不可欠であると考えている。（三重県長崎部長）

○リニアの開業への期待は極めて大きく、奈良市附近駅の整備について、本県全体のみならず、関西のゲートウェイとなるようにまちづくりも含め全県で取り組んでいく所存。（奈良県安井部長）

○大阪、東京間を67分で結ぶことは大阪としても非常に大きな効果があると考えており、これは知事も同じ思いである。この場を通じて、さらなる事業の促進に取り組むことができれば良いと考えている。（大阪府谷口部長）

○リニア中央新幹線は、国家的見地に立ったプロジェクトであり、骨太の方針にも記載されている。静岡工区で動きがある中、全線開業に向けた関心も高くなってきており、政府としても、1日も早い開業に向けて取り組んでいきたい。

（国土交通省北村幹線鉄道課長）

○名古屋以西については、今年の12月、環境影響評価に着手した。以東で発生した課題等をこの場で共有し、それを踏まえ以西ではどう進めていくかなど、課題の解決にご協力いただけたらと考えている。（JR東海田畑副本部長）

【2. 設置趣旨】

- 別添「設置趣意書」のとおり。
- 要綱については原案どおりとし、7月18日をもって連携会議を設置。

【3. 取組状況と方向性について説明】

- 三重県では、令和4年11月に県リニア同盟会において、三重県駅位置について亀山市内3ヶ所を駅候補地として決議し、JR東海に要望した。令和5年12月には、駅候補地エリアでボーリング調査が開始され、名古屋大阪間の環境アセスに着手された。今年の3月に「三重県リニア基本戦略」を策定し、この令和6年度からは行動計画となる「みえリニア戦略プラン（仮称）」の策定に着手する。（三重県長崎部長）
- 奈良県では、名古屋以西の着工に備え、本県の特徴である埋蔵文化財の発掘調査については、体制強化や予算確保と運用の円滑化等により、発掘調査可能面積を従来の3倍増とする等、取り組みを進めている。現在、県内駅候補地で実施中のボーリング調査は2箇所目となっており、引き続き密接に連携して取り組んでいく。名古屋以東の動きを「遅れ」ではなく、名古屋以西の「準備期間」と捉え、本連携会議を通じて関係者の協力を得ながら、早期着工に向け取り組んでいきたい。（奈良県安井部長）
- 大阪府では、令和4年10月に都市再生緊急整備地域に指定された新大阪駅周辺地域のまちづくりの検討を官民一体で進めている。早期全線開業に向け、令和3年12月に「リニア中央・北陸新幹線早期全線開業実現議員連盟」が設立された。機運醸成の取組みとして、阪急大阪梅田のエントランスビジョンでのデジタルサイネージの掲出や、昨年12月には「万博鉄道まつり2023」への出展、今年1月には「鉄道博2024」にもブースを出展してPRに努めている。（大阪府谷口部長）
- 概略の駅位置・ルートを決定するための技術的な検討については、JR東海で進められているが、技術的な観点だけでなく、用地の取得や、駅周辺環境整備、開発、地域の皆様のご理解、そういった社会的な観点からの検討も必要不可欠である。全線開業を早期実現するためには関係者が一緒の方向を向いて努力をしていくことが重要であり、本日の参加者ととともに努力して参りたい。（国土交通省北村幹線鉄道課長）
- 今年の12月に地質調査を開始し、環境影響調査に着手した。今後も地質調査を進めていくので調査箇所や手続きについてご協力をお願いします。リニア中央新幹線はトンネル区間が非常に長くなり、トンネルから出てくる発生土の処理は大きな課題になると予想される。名古屋以西では文化財も大きな課題であり、名古屋以東においても文化財で時間がかかることがあった。また地籍調査の進捗状況によっては、用地取得までに時間がかかる等の課題も考えられる。ご協力の程よろしくをお願いします。（JR東海田畑副本部長）

【4. 意見交換】

- 引き続き、各三府県で連携し、情報共有を行いながら取組を進めていくことで合意。

連絡先	三重県 地域連携・交通部 広域交通・リニア推進課
電話	059-224-2805
担当	石川、市川